

事例報告への導入

—内部質保証の要点と各校の概要—

2026年度事例報告会（2026.7.17）

公益財団法人大学基準協会



大学評価の来歴（認証評価後）

第1期

自己点検・評価の実質化

（大学：2004～2010、短大：2007～2012）

第2期

内部質保証の構築・機能化

（大学：2011～2017、短大：2013～2018）

第3期

内部質保証システムの有効性

（大学：2018～2024、短大：2019～2024）

第4期

学習成果を基軸に据えた
内部質保証の重視とその
実質性を問う評価

（大学・短大：2025～）





大学評価の基本

内容

① 学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価

② 大学の取組みの有効性・達成度を重視する評価

③ オンライン教育の動向を踏まえた評価

方法

④ 学生の意見を取り入れた評価

⑤ 特色ある取組みの評価

⑥ 効果的・効率的な評価の実施

内部質保証について

？ 「内部質保証」と「点検・評価」は同じもの？

「内部質保証」する。 ⇒ 日本語として不自然。

「点検・評価」する。



「点検・評価」が特定の行為を表すのに対し、
「内部質保証」は、様々な行為の全体、それらにより達成されるべき状態を表しているといえる。

参考

高等教育における質の保証とは、提供される教育（インプット、プロセス、成果）が期待を満たしている、あるいは最低限の基準要件に達していることについて、ステークホルダーの信頼を確立するためのプロセスである。

(Assurance of quality in higher education is a process of establishing stakeholder confidence that provision (input, process and outcomes) fulfils expectations or measures up to threshold minimum requirements.)

(Harvey, L., *Analytic Quality Glossary* より)

内部質保証について

つまり…

以下も、全部「内部質保証」。

学生に良い学習経験を与え、一定の成果につなげていくための取り組みの全体。



大学基準(解説)

内部質保証の主要な要素は、教育の企画・設計から運用、検証、改善・向上に至る教育及び学習の適切性を確保するための一連の活動である。

内部質保証について

内部質保証の主要な要素は、教育の企画・設計から運用、検証、改善・向上に至る教育及び学習の適切性を確保するための一連の活動である。そのなかでは、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針をまず設定するとともに、教育・学習の内容方法等の設計や運用において全学的に必要な措置をとっていくことが求められる。また、理念・目的、3つの方針等に照らした教育活動の有効性の検証と、その検証結果を踏まえた改善・向上を恒常的・継続的に行うことが必要である。...

方針の策定

学位授与方針…学生が卒業時に達成すべき学習成果を明示

教育課程の編成・実施方針…学位授与方針を踏まえてどのように教育課程を編成するかを明示

学生の受け入れ方針…学位授与方針や教育課程の編成・実施方針に照らして、どのような学生を受け入れるかを明示

教育の企画・設計（カリキュラムの編成、授業方法の導入）

運用（カリキュラムに沿った教育、学習支援、成績評価、学習成果の測定）

検証と改善・向上（学習実態、学習成果を踏まえた教育効果等の確認、カリキュラムの改善）

大学の理念の実現

学問分野に求められる水準の維持

社会や学生の期待への対応



内部質保証について

◎ 2025年度の評価結果

⇒ 教育の企画・設計、運用面含め、全学的なマネジメント、支援といった点や、学生の学びへの影響といったことに目を向けた評価の傾向。

cf. 認証評価第3期の評価

内部質保証体制の整備における役割分担が不十分であるとされた大学が、全体の48.6%（2024年度）。

TIME
MANAGEMENT

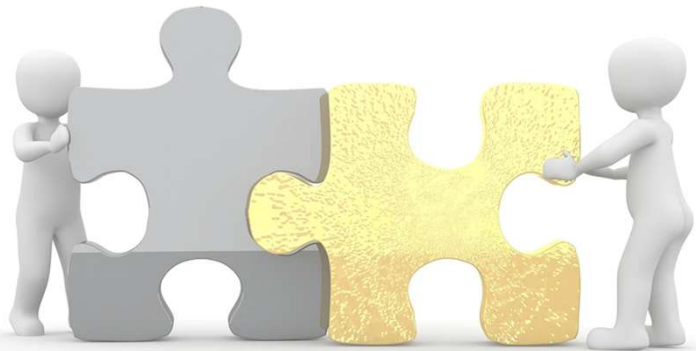
内部質保証について

? 内部質保証「システム」?

⇒ 内部質保証は、様々な行為の集合。様々な立場の方々の関与が必要なもの。
= “システム”といわれるゆえん。



様々な機能、人、部門をつなぐ役目を果たすもの、
課題等の共有の仕組み、努力が、
内部質保証を考えるうえで大切。



事例校について



関西大学

内部質保証を機能させるための工夫

- ✓ 教学IRプロジェクトが学生調査を多面的に実施・可視化し、その結果を全学の意思決定に活用するとともに、各学部教授会等へ直接報告・提案することで、教育の実施や充実・改善を現場ニーズに即して実現。
- ✓ 内部質保証確認シートと面談を通じて、学部・研究科と大学執行部がPDCAサイクルの進捗を共有・検証。かつ、フィードバックやFDにつなげることで、実効性の高い組織的な質保証を実現。

学習成果の向上・学びの充実とのつながり

- ✓ 可視化した学習成果は、フィードバックシステムにより学生自身が達成度を把握・比較可能に。
- ✓ さらに、達成度に応じた具体的なアドバイスの提示により、次の学習目標の設定を支援。学生による準正課教育プログラムの選択にも有効に機能。



事例校について



芝浦工業大学

芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

内部質保証を機能させるための工夫

- ✓ 自己評価や授業評価アンケート等の教学データを分析し、「mDP」(学修・教育到達目標)とカリキュラムの整合性を検証・改善するサイクルを構築し、継続的な教学改善を実現。
- ✓ 上記分析結果は、ポートフォリオシステムで学生・教員双方に可視化し共有。学生自身の振り返りと教員側の改善活動を結び付ける形で、修学支援と教学マネジメントを一体的に構築、機能化。

学習成果の向上・学びの充実とのつながり

- ✓ 上記ポートフォリオを通じ、自身の達成度を認識したうえで、学生が履修計画の立案や振り返りできる状況を実現。



Japan University Accreditation Association

事例校について



名古屋学院大学

内部質保証を機能させるための工夫

- ✓ 学長が教学改革推進会議等の会議体で自己点検・評価やマネジメントの重要性を繰り返し訴えるなど、**地道な努力の積み重ねで全学的な意識形成、行動化を実現。**
- ✓ 教育課程等の充実に、**学生・教員の意見**や**自治体等の意見**を取り入れ、活用。

学習成果の向上・学びの充実とのつながり

- ✓ ポートフォリオ等を通じ可視化した学習成果を、大学独自のポータルサイトと連携。
それにより、**きめ細かな学習指導を実現。**
- ✓ アセスメント・テストやGPA等のデータを蓄積・分析し、FDで共有。
それにより、**学生の学習傾向を踏まえた教育課程や指導方法の改善を実現。**

ご清聴ありがとうございました。
引き続き、各校の事例報告をお聞きください。



評価第1課 **daigaku@juaa.or.jp** (大学評価)
tandai@juaa.or.jp (短期大学認証評価)

